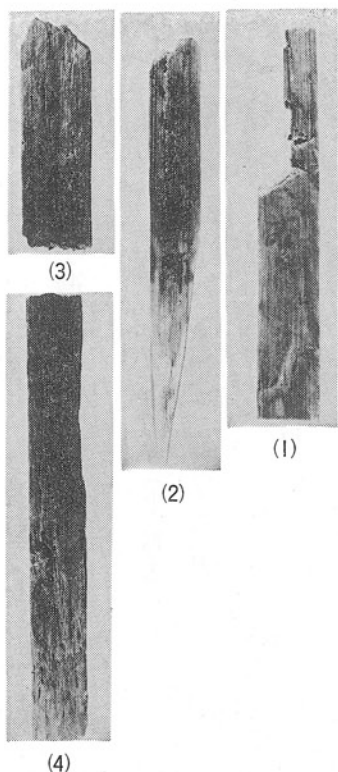


跡と有機的な関係も想定させる。

8 木簡の釈文・内容

出土点数が少ないことや(3)(4)は、同一個体と思われる)判読出来ない部分が多く、直接年紀の知れる部分もない点など、木簡からこの遺構や遺跡の性格を知り得るものではない。

- | | | | |
|-----|---|------------|-----|
| (1) | 「 $\square \times \square$ 万呂 \square 」 | 150×19×5 | 011 |
| (2) | 「 \square 竹カ
田宗我マ薬師」 | 173×20×6 | 051 |
| (3) | × \square | (90)×27×6 | 081 |
| (4) | × $\square \square$ 廣万呂 $\square \square$ (二石カ) | (182)×23×6 | 019 |
| | | (漆畑 敏) | |



木簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京) 五条五坊七坪 藤原宮跡 稗田遺跡——下ッ道—— 長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鵜・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野町地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡 (三)

平城宮跡(第二一次・第二二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

池田 温

庸米付札について

狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に——

志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円